

小学校中学年の部 銀賞

大切なヘルメット

高久小学校 4年 鈴木 陽琉

前日の雨がやんでとても晴れていい天気だった。お父さんに、
「自転車に乗りたい」

と言った。

お父さんは

「いいよ。ヘルメットをかぶってね。」

と言った。

ぼくはヘルメットをかぶってじゅんぴを始めた。そのときぼくは気づいた。

「お父さんはヘルメットをかぶらないの。」

と言った。お父さんは

「お父さんは、なれてるから大丈夫。」

と言った。ぼくはお父さんが言うからあまり気にしてはいないで、出発した。

その日はお父さんと話し合っ山の方に行くことにした。学校の近くを通過して山にむかった。この山道は何回か通ったことがある。のぼり坂をいっしょうけんめいこいで十文字の切り通しのてっぺんについたので、いきおいよく下っていった。その後ろからお父さんの声と大きな音がした。ぼくは自転車を止めてお父さんのほうをふりむいた。

そこにはどろまみれでお父さんがたおれていて、頭から血がたれていた。山道は雨のえいきょうがのこっていてとてもすべりやすくなっていた。ぼくはびっくりして大丈夫と聞いた。お父さんは何度も

「ごめん、ごめん。」

と言っていた。そして、お母さんに電話をして、むかえにきてもらうことになった。

むかえにきてもらうまでの間お父さんは何回も聞いてきたり、お母さんに電話をかけていたことをおぼえていないと言ったりいつもと様子がちがっていた。

お母さんがむかえにきて急いで病院に向かった。病院ではきずのしよちやレントゲンをとってもらった。ぼくはとても心配だった。

けっか、きずは思ったよりひどくなくて、頭もいじょうはなかった。お医者さんは、のうしんとうをおこしていたから様子がおかしかったんだねと説明してくれた。

ぼくはこのけいけんから、ヘルメットをかぶる大切さと道のじょうきょうを見る大切さが分かった。お父さんもヘルメットをかぶってればこんな大きな事故にはなっていなかったと思う。大人だからなれているから大丈夫ということはないと思う。周りをよく見てゆだんをしないで運転をすることが大切だと思う。

数日後お父さんはヘルメットを買った。今では二人ともヘルメットをかぶって安全に運転して自転車を楽しんでいる。

小学校中学年の部 銀賞

交通ルールを守る大切さ

長倉小学校 4年 川上 幸春

わたしの家から学校まで約三十分ぐらい毎日歩いて通っています。横だん歩道もいくつかあり、車がたくさん通っている広い道路もあります。家に近い道路は、急な坂道になっていて、毎日大変です。だから、どきっとしたこともありました。一学期のことです。

学校の帰り道、大きな横だん歩道の真ん中に赤色の車が止まっていた。横だん歩道の信号は青でしたが、その車はずっと止まったままだったのです。わたしの友達がその横だん歩道をわたりたかったのととてもこまっていた。そして赤い車は、そのまま行ってしまったのです。わたしはこわくなりました。もしわたしの友達がその車をむしってわたっていたら。もし、その車も通ってしまったら。そのときは交通事故になっていたかもしれません。このようなことが近くでおきたことがとてもかなしかったです。

家に帰って家族に話して、交通ルールのことを調べてみることにしました。まず横だん歩道とは、歩行者が安全に道路をわたるために、道路標しきや道路標示で示された場所のことです。そして、ドライバーは横だん歩道を通行する歩行者をほごするぎむがあるのだそうです。信号の意味は、青は進め、黄は注意、赤は止まれです。でも青信号は、「進んでもよい」という意味であり、場合によっては止まる必要もあるそうです。これらのことから、歩行者にもたくさんの交通ルールがあるのだということが分かりました。ふりかえってみると、学校が終わってから友達とよく公園で遊ぶことがあります。家から公園まで、一人で歩いていくこともあるし、おばあちゃんに車で送ってもらうこともあります。一人で歩いていくときは、家と家の間から車がこないか注意しています。また、右左をよく見て車や自転車がこないかたしかめてから行くようにしています。

おばあちゃんの車で送ってもらうときは、乗りおりするときにまわりに人がいないか、車がこないかをよく見てから行くようにしています。車に乗っていると小さな子どもは、見えづらいことがあるので十分気をつけなければならないと思います。

このように、車にも歩行者にも交通ルールがたくさんあると感じたので、これからも命を守る行動をとっていきたいです。また、下の学年の友達にも、教えてあげたいなと思いました。

小学校中学年の部 銅賞

あい犬とのさん歩と交通安全

高久小学校 3年 鈴木 あいこ

わたしの家には、四才のしば犬がいます。せいかくは、とても元氣でごはんとおやつが大好きな男の子です。

わたしも、いっしょにさん歩に行きます。リードを持つのは、お父さんやお母さん、お姉ちゃんがメインです。わたしも時どき、持たせてもらいます。わんちゃんといっしょに歩く時の道路や道で気をつけることを書いていこうと思います。

一つ目は、まん中を歩かせないことです。理由は、道路は車が走る所なので、犬がとび出さないように、リードをみじかく持ちます。また、横だん歩道のしん号がなかったら、かいぬしが右左をかくにんして車にちゅういしながらわたります。わんちゃんは人より小さくて、車の運てん手さんから見えにくいので、しん号きがある横だん歩道をわたるように気をつけています。また、車が止まってくれた時は、運てん手さんに「ありがとうございます」と言って、おじぎをして道をわたらせてもらいます。

二つ目は、夏は明るい時間が長いので安心ですが、冬になるとくらくするのが早いので、さん歩する時はちゅういがひつようです。たとえば、車の運てん手さんに気づいてもらえるようにわんちゃんの首にピカピカ光る首わをつけてさん歩します。かいぬしも明るい色の服を着たり、かい中電とうを持って道をてらしながら歩きます。はんしゃばんも使うところかてきです。交通りょうが多い時間で、車がたくさん走っている時は、ゆっくりあせらず歩きます。車通りが少ない道をさがして歩くのも大切なことです。

ノーリードでさん歩するのは、とてもきけんです。なぜかという、道路にとび出して、じこにつながったり車も犬も人もきけんなことになってしまうからです。かならず、リードをつけてさん歩することで交通安全につながります。

車だけではなく、自てん車にもちゅういがひつようです。道はばがせまい所では後ろから来る自てん車に気がつくのがおそくなってしまい、ぶつかりそうになってしまうこともありました。わんちゃんがびつくりしないように、かいぬしがしっかりまわりの様子を見てさん歩をすることが大切です。もし、自てん車が来た時には、はんたいがわによって止まります。自てん車が行くのをまってから安全をかくにんして歩きます。また、歩行しゃさんにも気をつけて歩道をさん歩します。

さい後に車、自てん車、歩行しゃ、わんちゃんたちも安全に道路や道をみんなが使っているように交通ルールをまもって生活していくことが一番です。これからも、しん号や道路のじょうきょうをしっかりと見て、あい犬のさん歩を楽しみたいと思います。

道路を渡る時に思うこと

中央台東小学校 4年 高橋 慶

今年の四月、ぼくは福島市からいわき市の小学校に転校しました。新しい学校になって、まず最初にちがうと思ったことは、朝の登校の仕方です。前の学校では一人か、お兄ちゃんといっしょに学校まで登校してましたが、いわきでは毎日、集団登校なので同じ地区に住んでいる近所の子と十人ぐらいでまとまって登校します。そこに、見守りたいの大人の人と一緒に学校の門の前まで付いてきてくれます。なれるまでは、集合時間やみんなを待たせたくないという焦る気持ちはありましたが、はんの人たちと合流してからは一人じゃないので安心して登校することができます。早起もできるようになり、朝よゆうをもって登校できるようになりました。

今思えば前の学校の登下校の時に、危ないな、危なかったなとひやひやしたなど、怖いと思ったしゅんかんが何回かありました。

一番印しようにのこっていたことは、クラスの同じコースの友達四人で下校していた時のことです。横だん歩道の手前で、道路のまんなかに青い手ぶくろが落ちていることに気がきました。でも、歩行者用の信号は赤だったので、わたらず青になるのを待っていましたが、ぼくの後から来た友達は、手ぶくろを発見してすぐに飛び出してしまいました。さっきまで車は一台も来ていなかったように見えたが、友達が飛び出した時にはすぐ近くまで車が走って来ていて、急ブレーキをかけて止まりました。

「信号むしするんじゃないぞ！」

と、運転手のおじさんが、さけんで去っていきました。本当にいっしゅんの出来事でしたが、ぼくはとても怖かったです。でも、運転手のおじさんもきっと、すごく怖かったんじゃないかなと思います。もし、あと一歩タイミングがずれていたら目の前で事が起きていたかもしれません。運転していたおじさんも、加害者になってしまっていたかもしれません。ちょっとしたタイミングのずれや焦りや不注意が、その人の人生を変えてしまうんだなと思いました。

福島でもいわきでも、朝は地域の見守りたいの人たちやお家の人、横だん歩道で旗を持って待っていてくれたので、ぼくたちも安全に渡ることができていました。でも、学校が終わってからの帰り道は、一年生の時は親の迎えや先生のつきそいがありましたが、上学年になったら自分たちで交通ルールを守って帰らなければなりません。大人になるにつれて、なれてくるとだんだん交通ルールを守らず気がゆるむ人が多く感じます。お母さんの買い物につきそって出かけると、横だん歩道のない所を渡って、信号をむししている大人をたまに見かけます。ぼくは真ねしようとは思いません。焦ってもルールを守れる正しくてやさしい人がふえると良いと思います。

小学校中学年の部 銅賞

交通事故をへらすために

泉小学校 4年 三本松 奏

横だん歩道をわたる時やちゅう車場を歩く時にぼくが一番気をつけている事は、周囲の安全かくにんです。どのような事をしているのか例をあげると、車が来ていないかかくにんする事や、信号を見てわたる事などをしています。

最初に言った通り、「事故にあわないようにするには、周囲の安全かくにんが大事」という事が身にしみて分かった時があります。それは、自分があぶない目にあった時です。

どんなに気をつけていても、たまにってしまう事があります。それは、ちゅう車場で左右の安全かくにんをわすれて、そのままわたろうとしてしまう事です。これをがんばってかくにん出来るようにするのが、今の自分の目標です。

自転車に乗っている時にも、あぶない時があります。例えば、自分がよくやってしまう事では、人にぶつかりそうになってしまったり、坂道でスピードを出しすぎてしまったり、まだ色々な事が出来ていません。だからこそ、がんばって様々なルールをおぼえて、ちゃんと守れるようになる事が大事だと、ぼくは思っています。

登下校中でも、しっかりはん長さんが見守ってくれているとはいえ、気をつけないとあぶないです。最近、校内放送で、えん石に乗って歩いている人の事や、道路の近くで遊んでいてあぶないということをよく聞きます。なので、登下校中のルールを守って、安全に注意してほしいです。

ニュースでも、小中学生の事故が取り上げられているのを見ます。その原因としてあげられるのが、信号も横だん歩道もない所で、左右をかくにんせずにわたってしまった事や、横だん歩道の信号が青だからと言って、あまりかくにんをせずにわたろうとしてしまった事などがあります。この二つは、どちらも不注意によるものなのでぼく達も気をつけなければいけません。しかし、信号のない横だん歩道で、わたりたい人がいる時は車は一時ていしするのがルールなのですが、止まらない車があるので必ず車が止まってくれると思わずに、む理にわたろうとしない事も大切です。他にも事故の原因はありますが、ここで重要な事は、ルールとは別に、自分の身は自分で守る事だとぼくは思いました。

交通事故は、どんなにがんばってもなくす事はできません。でも、交通事故をへらす事なら出来ます。交通事故をへらすためには、ぼくたちがルールを守って、いつも車などに気をつけて歩いていればいつかはへらす事が出来ます。それを可能にするためには、まずは自分が気をつける事が、交通事故をへらす始まりなのだと、ぼくは感じました。

小学校中学年の部 佳作

事故には気をつけよう

中央台東小学校 4年 石田 香音

私は今まで車にひかれるなど、あぶない思いをしたことはありません。それはどうしてかという、ようち園の時から、毎年交通安全教室できけんなことを、教えてもらっているからです。横だん歩道を渡る時は、左右をよくかくにんして手をあげて渡ります。

今まで何回も交通安全教室でいろいろなことを教えてもらいました。信号きのない道路に出る時は一度止まるや、道ろであそばないこと、バスの乗り方やおり方を、教えてもらいました。だからお母さんといっしょに横だん歩道を渡る時は、お母さんにも「手をあげて」と声をかけます。お母さんは、はずかしそうに手をあげています。

私は、手をあげて渡らないのはだめだと思います。それは、まえにテレビのニュースで見た横だん歩道を渡っていて青信号なのに車にひかれてしまった人がいるからです。どうして青信号で渡ったのにひかれてしまったのかふしぎです。車をうんてんしている人も赤信号だったら止まらないとだめなのにルールをまもらない人もいるんだと思いました。

私は四年生になってから自転車でお友だちとあそびに行くことがあります。出かける前におとうさんがヘルメットをかぶせてくれます。あつくていやだなと思ってかぶらないで行こうとするとおこられます。それはヘルメットは転んだ時に頭を強く打たないため、ヘルメットをかぶらないで転んだら頭を強くぶつけて死んでしまうかもしれないからです。そうなったら私もいやだしおうちの人もかなしむので、ヘルメットをきちんとかぶって信号や道路に気をつけて自転車にのりました。道路を歩く時はたくさん気をつけないといけないんだと思います。私だけではなくて大人もお兄ちゃんもみんなが気をつけないといけないと思います。朝とうこうはんでおともだちとかのお母さんやお父さんがはたをもつて横だん歩道であんぜんに渡らせてくれます。ボランティアの人たちも見まもってくれています。だから、私たちは、あんぜんにとう校できています。

小学校中学年の部 佳作

交通事故を防ぐために思ったこと

中央台東小学校 4年 遠藤 恋桜

なぜ、交通事故はおきてしまうのか。

私は、ニュースをきっかけに考え、それを防ぐためにはどうすれば良いかも考えた。交通事故が原因で命を落としてしまう人もいるし、重いけがをして後いしょうがのこってしまう人もいる。たった一回の交通事故が原因なのにと、悲しいと思う。できるのなら、交通事故をなくしたい。だれか一人がルールを守らなければ、事故はかんたんにおきてしまう。

そこで私が問題だと思うことが、車にも、歩行者にもある。例えば車の運転手がわの問題点だと思うところは、信号無視やながら運転、飲酒運転と高れい者のきけん運転だ。防ぐためには、信号無視については黄色信号になったらブレーキをふめる速度で走ること、ながら運転はテレビを見たりスマホを使ったりしないで前をむきながら運転することと、飲酒運転を防ぐためには、運転手はお酒を飲まないということをぜったいに忘れないこと、高れい者のきけん運転は体力と運転に自信が無くなってきたら、家族で話し合ったり、めんきょを返したりと交通事故対さくをすることも大切だと思う。しかし、全て車の運転手がわが悪いというわけではない。歩行者がわにも問題点がある。例えば、横だん歩道でスマホに夢中になり、ゆっくり歩いたり、イヤホンで音楽をきいていて、クラクションに気づかなかったりもする。そのようなことを防ぐためには、どちらも横だん歩道や、ふつうの歩道でもよけいなものは、何も見ず、何もきかずに歩くと良いと思う。そうすれば交通事故をへらすことができると思う。

日本全国では、交通事故がおこっている。

もし、自分が交通ルールを守らなかったら、まわりの人、近くにいる人にめいわくがかかる。自分でも、近くにいる人にめいわくをかけるのはいやだから、これからはしっかりルールを守っていききたいと思う。

交通事故をへらす、なくすということができれば、多くの人が安心、安全なすてきな町や国になっていくと思う。そのような町や国になるように、みんなで交通ルールを守るように取り組み、もし道をゆずられたら、感謝の気持ちをもって頭を下げるなど、相手の気持ちを考えて行動することが、交通安全への第一歩なのではないかと、私は思う。

しかし、そのようなルールを知っていても、守らない、守ろうとしない人が、時々いる。そのようなことは、どうやって改ぜんしたら良いかは、まわりの人が呼びかけても、その人は直そうとしないことだってある。だからやっぱり、自分の行動を見直す、自分で気をつけることが大切だと思う。そうすれば、事故はへったりなくなったりすると思う。

そこで、みんなでルール、マナーを守り、平和なまちづくりをし、みんなが安心、安全だと思えるまちにしていきたい。